

携行缶の取り扱いについて

平成 25 年 8 月 20 日

中央分団長 那智博行

ガソリン携行管の使用上の不注意による事故が発生しました。我々消防団でもガソリン携行缶は燃料備蓄の為、常備保有をしておりますので、ガソリン携行缶の取り扱いに関して各部にてご指導をお願い致します。

【携行缶への給油時の注意】

- 消防法により、フルサービススタンドの資格を持った従業員でなければ携行缶への給油は禁止されています。

【ガソリン携行・保管時の注意】

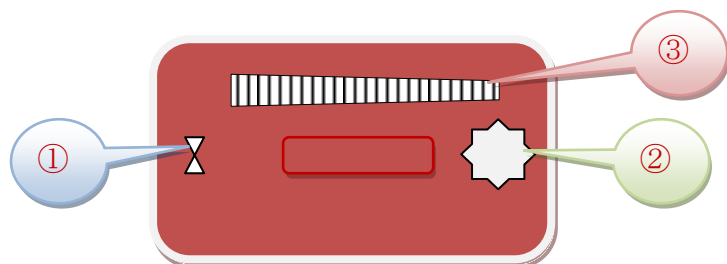
- ガソリンは、長期保管をすると品質が劣化し、燃料として使用できなくなります。早めに使用すること。また、空気に触れる機会が増えると劣化が早まります。できるだけ1回で補給すること。
- ガソリンは、引火性・着火性の高い危険物です。保管が必要な場合は、火の気がなく温度変化の少ない安全な場所に保管すること。直射日光が当たる場所、高温になる場所での保管は変形や破裂や火災、雨や雪に当たる場所、湿気の多い場所での保管は錆などの原因となり、いずれも大変危険です！
- 保管前には、タンクキャップ、エア調整ネジを確実に締めた状態で携行缶をゆっくりと傾け、タンクキャップ、エア調整ネジ、本体から漏れのないことを確認したうえで、常に安定した平らな場所に固定して保管すること。
- 内圧の変化により、変形の恐れがあるため、適時エア調整ネジを緩め、缶内の圧力を調整すること。その後は、再度ネジを確実に締めて保管すること。

【携行缶の車載時の注意】

- 車に搭載できるのは、最大容量20Lまでです。
- 携行缶を動かす際は、タンクキャップ、エア調整ネジを確実に締めた状態で携行缶をゆっくりと傾け、タンクキャップ、エア調整ネジ、本体から漏れのないことを確認してから移動すること。
- 車に搭載する場合は、必ず携行缶本体が動かないようしっかりと固定すること。

【携行缶からの給油時の注意】

- 発電機（給油先の機械）は、必ず停止させること
- 給油の際は、万が一溢れても周囲・人体に危険を及ぼさない安全な場所で行うこと。
- キャップ、ノズルの開閉時は、軍手などを着用のこと。
- 必ず**エア調整ネジ①を緩め**、缶内の圧力を調整してから取り外すこと。次に**タンクキャップ②を外し**、**給油ノズル③を**しっかり装着します。キャップを一気に外すと、内圧差によるガソリンの噴出、キャップの飛び出し等による事故が起きる恐れがあり大変危険です！



- 使用後はノズルを外し、タンクキャップ、エア調整ネジを確実に締めること。そのうえで缶を静かに傾け、タンクキャップからガソリン漏れのないことを確認すること。
- 給油ノズルは、安全な場所ですよく乾燥させたくうえで、本体天面のノズル止めにはめ込むこと。

【携行缶保存時の注意】

- 携行缶が空になっても、火気は絶対に近づけないこと。
- 空の状態です長期間保管する場合は、エア調整ネジを少し緩めておくこと。
- 使用前には、本体、各部品に破損や劣化がないことをよく確認すること。
- 本体は亜鉛メッキ鋼板製ですが、使用環境・状況によっては錆が発生する場合があります。**錆や破損、劣化が見られる場合は、直ちに使用を中止すること。**
- タンクキャップ、エア調整ネジ、給油ノズルのパッキンに破損、劣化が見られる場合は、必ず部品交換すること。